

社会科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 磯 崇仁

1 対象・日時 2年B組 令和4年2月18日(土) 1校時

2 本単元で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①自由民権運動，大日本帝国憲法の制定，日清・日露戦争，条約改正などを基に，立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。</p> <p>②我が国の産業革命，この時期の国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展などを基に，我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解している。</p>	<p>①工業化の進展と政治や社会の変化，明治政府の諸改革の目的，議会政治や外交の展開，近代化がもたらした文化への影響，戦争に向かう時期の社会や生活の変化，世界の動きと我が国との関連などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。</p>	<p>①近代の日本と世界について，よりよい社会の実現に向けた粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとしている。</p>

3 単元「近代の日本と世界」について

本単元「近代の日本と世界」は，近代の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現することをねらいとしている。この単元のうち，「C(1)ア(ウ)議会政治の始まりと国際社会との関わり」「C(1)ア(エ)近代産業の発展と近代文化の形成」の2つの小単元を内容のまとまりとして捉え，単元の学習を展開していく。本単元で扱う時代は武家政権の終焉とともに，明治新政府による近代国家の基礎が整えられる社会の大きな転換点となる場面である。また，明治時代の後半になると，資本主義や帝国主義が活発化した世界の動きの中で，日本でも議会政治の成立や外交の展開，日清・日露戦争，条約改正等に伴い，政治的・経済的・文化的な変化がみられるようになる。

そこで，本単元では，「明治時代を通して，日本はどのような国へと変わったか」という単元を貫く問いに基づいて，明治時代後半の歴史的な事象について，その成果と課題，日本の視点と他国からの視点，政治的側面・経済的側面・外交的側面・文化的側面など，多面的・多角的に考察する姿を目指したい。また，この活動を通して，「立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国の国際的な地位が向上したこと」や「我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたこと」を理解することを目標とする。

4 生徒の学びの履歴

これまでの学びの中で，一枚式ワークシートに改良を加え続けてきた。現在は「習得ボード」「活用ボード」「深化ボード」の3つから構成されるワークシートを使用している。「習得ボード」と「活用ボード」は，単元で育成すべき知識・技能を習得し，パフォーマンス課題を通してそれらを活用することで，習得場面と活用場面を往還しながら生きて働く知識・技能を育成するものである。「深化ボード」は，単元の学習前から単元末までの学びの履歴を確認できるように日々の学習の振り返り等をまとめたものである。

また，これまでの学びの中で，協働的な学びを実現するために，自分の調べたことや考えたことを4人班で共有する場面を設定してきた。他者の考えを参考にしたり，他者の記述について議論を交わしたりすることで，それぞれ扱うべき事項についてより深い知識へと触れられるようにしたり，多面的・多角的に社会的な事象を捉えられるようにしてきた。

5 資質・能力育成のプロセス（8時間扱い、本時 は7時間目）

次 時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1 1	<p>知① 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などの歴史的事象について大きな流れを理解している。(○)</p> <p>知② 我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などについて大きな流れを理解している。(○)</p>	<p>【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C：資料から読み取れることについて助言し、気が付いたことを記述させる。</p> <p>【行動の観察・ワークシートの記述の確認】 C：資料から読み取れることについて助言し、気が付いたことを記述させる。</p>
2 5	<p>知① 学習課題の追究を通して、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などの歴史的事象について理解している。(○)</p> <p>知② 学習課題の追究を通して、我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などについて理解している。(○)</p>	<p>【ワークシートの記述の確認・付箋の記述の確認】 C：教科書等を活用し、主な出来事をワークシートにメモをとらせながら、明治時代の出来事を整理させる。</p> <p>【ワークシートの記述の確認・付箋の記述の確認】 C：教科書等を活用し、主な出来事をワークシートにメモをとらせながら、近代産業の発展や近代文化の形成を理解させる。</p>
2 7	<p>思① 「明治時代初期から明治時代末にかけてどのような社会の変化が見られたか」という問いに対して、多面的・多角的に考察し、表現している。(○)</p>	<p>【行動の観察・ワークシートの記述の確認・付箋の記述の確認】 C：第1次までに記述した内容を生徒と確認し、それを基に明治時代の社会の変化について気付いたことを口頭で問いながら、自分の考えを記述する手助けをする。</p>
3 8	<p>思① 近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、「明治時代を通して、日本はどのような国へと変わったか」という問いに対する自分の考えを表現している。(◎)</p> <p>知① 立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。(◎)</p> <p>知② 我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。(◎)</p> <p>態① これまでの学習の振り返りを通して、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。(◎)</p>	<p>【ワークシートの記述の分析】 C：第2次までに記述した内容を生徒と確認し、明治時代の社会の変化について気付いたことを口頭で問いながら、自分の考えを記述するように促す。</p> <p>【ワークシートの記述の分析】 C：第2次までに記述した内容を生徒と確認し、我が国の国際的な地位が向上したことに気付かせる。</p> <p>【ワークシートの記述の分析】 C：第2次までに記述した内容を生徒と確認し、近代産業の発展と近代文化の形成に気付かせる。</p> <p>【ワークシートの記述の分析】 C：学習前に記述した自分の考えを振り返り、授業を通して考えが広がったり深まったりしたことについて口頭で問いながら、記述する手助けをする。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代後半の日本と世界を大観できる資料を提示し、そこから読み取れる日本の様子を整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【単元を貫く問い】明治時代を通して、日本はどのような国へと変わったか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プランを通じて、単元の目標や学習方法など、見直しを確認する。 ・単元を貫く問いに対して、学習前の自分の考えを「深化ボード」に記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が資料としっかりと向き合い、気づいたことを記述できるようにするため、個人で取り組む時間を確保する。その上で、学級全体で気づいたことを共有する。 ・単元を貫く問いに対する学習前の自分の考えの記述を評価し、生徒の学習前の状況を把握する。 	1
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【問い】明治時代後半に日本でどのような出来事が起こったか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の制定、条約改正交渉、日清戦争と日露戦争、産業革命と近代文化の起こりについて、教科書等を用いて調べる。 ・調べたことを生かして、各時に提示される問いに対する自分の考えを記述する。 ・自分の考えやその根拠を4人班で共有し、他者の考えを追記したり、自分の考えを修正したりする。 ・深化ボードに学習の自己評価を記入し、気づいたことを付箋に書き込んで、学級全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書等でおもな出来事を調べる際に有効となる資料やそのページ数等を全体で共有する。 ・それぞれの出来事を調べる際に、本時の問いに対する自分の考えを記述する上で必要な情報を引き出せるように資料を読むように促す。 ・4人班で自分の考えを共有する際には、それぞれがその判断の根拠とした部分に耳を傾けて、自分の考えを赤字で修正するように促す。 ・自分の考えや付箋の記述について、代表的なものを取り上げて、共有する。 	2 5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【第2次の問い】明治時代初期から明治時代末にかけてどのような社会の変化が見られたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・第1次で整理した知識を活用して、明治時代の社会の変化を思考ツールに整理する。その際、様々な側面や様々な立場を意識して、多面的・多角的に考察するように指導する。 ・記述した内容を4人班で相互評価し合い、他者の考えを追記したり、自分の意見を修正したりする。 ・深化ボードに学習の自己評価を記入し、気づいたことを付箋に書き込んで、学級全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「明治時代初期から明治時代末にかけてどのような社会の変化が見られたか」について考察し、表現する上で、第1次で習得した知識を生かして整理するように促す。 ・4人班で記述した内容を共有する際には、それぞれがその判断の根拠とした部分に耳を傾けて自分の考えを赤字で修正するように促す。 	6 7
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【単元を貫く問い】明治時代を通して、日本はどのような国へと変わったか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く問いについて、学習後の自分の考えを記述する。 ・「深化ボード」に、単元の学びを終えて自分の思考がどのように変化したかを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、明治時代について多面的・多角的に考察した成果を発揮して、自分の考えを表現するように促す。 ・これまで記述した学習前の自分の考え、授業時の自己評価、付箋等を参考にしながら、自己の学びがどのように深まってきたかを振り返らせるように意識させる。 	8

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

「明治時代を通して、日本はどのような国へと変わったか」という単元を貫く問いに対する自分の考えを記述する中で、明治時代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現しようとしている姿。



【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

本単元では学習指導要領の2C(1)ア(ウ)(エ)で示された知識・技能を身に付けることを目指す。単元の前半では、「明治時代後半に日本でどのような出来事が起こったか」という問いに対する小さな問いを毎時間提示し、その問いに対する自分の考えを記述する活動を通して知識・技能の習得を目指す。その際、記述した自分の考えを、4人班で共有する場面を設定する。そこで、個人が習得した知識・技能を修正したり追加したりすることによって、それを多面的・多角的な考察に生かすことができるように指導する。単元の後半では、これまでに習得した知識・技能を活用して、明治時代における社会の変化の様子を多面的・多角的に考察する課題に取り組む。この活動の中で、明治時代を様々な側面、様々な立場から見つめることで、より深く明治時代の社会の様子を理解できるようにする。単元末にワークシートの記述を分析することで、明治時代における社会の様子を理解できているかを評価する。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

本単元では学習指導要領の2C(1)イ(ア)で示された「近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する」という思考力・判断力・表現力等を身に付けることを目指す。「明治時代を通して、日本はどのような国へと変わったか」という単元を貫く問いに対して、単元の前半で習得した知識・技能を活用して、自分の考えを表現できるように指導する。特に、自分の主張を裏付けるための根拠を明確に示し、説得力をもたせられるように促す。また、知識活用場面でも4人班での活動を設定し、他者の主張とその根拠を相互評価し合う中で、自分の主張も評価・修正できるような力を身に付けさせていくように指導する。単元末に課題の取組状況を分析して、明治時代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察できているかを評価する。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

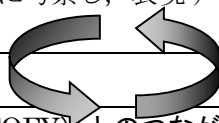
粘り強く学習課題に向き合い、自己の学びを調整しながら学習を展開できる姿を目指して、ワークシートへの振り返りの記述を通して指導する。単元の初めに記述する「学習前の自分の考え」、単元の展開の中で学習の振り返りを記述する「付箋」、単元の終末に記述する「単元の学習を通して自分の思考が深化した点」をワークシートの1ページに時系列でまとめさせる。この活動を通して、8単位時間の学習の中で、自己の学習の軌跡やその調整の過程などを見つめながら、主体的に学習に取り組む態度を育めるよう指導する。単元末にこれらの記述を分析することで、主体的に学習に取り組む態度を評価する。

○言語活動を充実させるための工夫

第1次では、おもに習得した知識を記録・要約する活動を中心に行い、知識・技能を身に付けられるようにする。第2次と第3次では、おもに習得した知識を活用して問いに対する自分の考えを論述する活動を中心に行い、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるようにする。また、どの場面においても、班活動を通して自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いて自分の思考に関連づけたりしながら、資質・能力の育成につなげる。

【本単元での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解すること。（2C(1)ア(ウ)）
- ・我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解すること。（2C(1)ア(エ)）
- ・近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。（2C(1)イ(ア)）



【本単元における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】（※「考えるための技法」はゴシック）

- ・TOFYにおける研究対象となる事象について、様々な側面や視点、立場があることを踏まえて調査を進め、**物事を多面的・多角的に見る**ことができるようになる。
- ・習得した知識を活用して自分の意見を主張する活動を通して、TOFYにおいて自分の考察を裏付ける根拠を**理由づける**力が育まれる。